



トヨタ看護専門学校だより

発行
トヨタ自動車株式会社
トヨタ看護専門学校
発行人 辻 秀樹
編集人 鎌田 浩也



芸術鑑賞会を終えて

1 学年 (31 期生) 鬼頭 美森



平成二十九年十月十三日、私たち第三十一期生は名古屋四季劇場へ芸術鑑賞に行きました。今回鑑賞した作品は去年先輩方が鑑賞し、評判の良かった「リトルマーメイド」です。私は元々ミュージカルに興味がありました。しかし、本格的な舞台を実際に見ることは今回が初めてであったため、とても楽

しみにしていました。実際に劇を見て様々なことを考えましたが、そのなかでも特に印象に残っていることを二つ紹介します。

一つ目はアリエルの一途さです。人魚姫であるアリエルは、海のなかで不自由な生活を送っていたわけではなく、むしろ父や姉、他の魚たちに囲まれて恵まれた生活を送っていました。それにも関わらず、地上への憧れや、王子様への恋心、「私はここにいないべきでない」と自分の意思

を一途に貫き通し、何も分らない環境へ自ら飛び出していきました。このアリエルの一途さは周りに流されやすい私からすると、とても尊敬できるものでした。

私は高校生の時にアリエルと似たような経験をしました。私の夢はずっと看護師になることであつたので、迷わず看護の道を選びました。そして、看護師になるための様々な選択肢から今の道を選びました。選ぶ際、周りから反対されるのが何度もありましたが、「私が行くべき道はこの道しかない。」

と思います、その意志を貫きました。私はこの道を選び、間違いなかったと思

っていました。しかし現実には自分の思いとは違い、周りとの価値観の違いや、考え方のギャップに悩みました。「この道を選んで本当によかったのか」「進むべきところを間違えてしまったのではないかと、悩む事もありました。そのようなときに、今回のリトルマーメイドを見て、私が最初に描いていた気ができました。アリエルの一途さに、そして一生懸命に頑張る姿を見て、勇気をもらい私も頑張ろうと思いました。



二つ目はこの舞台に関わる人たちが観客の

私たちには見えないところで努力しているというところが伝わってきたことです。劇全体の動きに無駄がなく、魅せる動きをたくさん知ることでできました。特に人魚が泳ぐシーンでは細かい動きまで取り入れており、本当に泳いでいるようでとてもきれいでした。舞台上では、海の生き物や黒子を含めた俳優さんや照明さん、舞台装置を動かす人の息がぴったり合い、それぞれの場面で迫力を感じました。その中でも特に私の目を引いたのは舞台上の俳優さんたちです。私は小さい頃からずっとジャズダンスを続けています。そのなかで自分の体を動かしたときに自らが思い描いている動きと違うことがよくあります。自分の目標とする動きに近づ

けるため何度も練習をし、自分の動きを映像や鏡などで確認する必要があります。さらに、舞台では、皆で動きを合わせる必要もあります。劇全体の動きに違和感、無駄がなく迫力を感じ、一人ひとりが努力をしていることがよく伝わってきました。

このことは、看護にながると思いました。まず、一人ひとりが看護師としてプライドを持ち、勉強します。そして、チーム医療の中で自分の動きを把握し、他の医療職の人たちについて知り、自分がどのように動いたら良いかを考えます。そうすることでチームとして動くことができ、患者様のためにより良い医療を提供できると思います。今はまだ看護師として働いているわけではないので、この

ような動きをすぐに実践するというわけにはいきません。しかし、今のクラス内での動きにつなげ、この先看護師として働けるときには今回考えたことを生かせるようにしたいです。



 自主研修旅行で
学んだこと
2学年（30期生）
永坂 明日香




私達、第三十期生全員が楽しみにしていた自主研修旅行。その旅行に十月四日から六日の二泊三日をかけ、コミュニケーションスキルを身に付ける目的で千葉及び神奈川に行ってきました。学びを深めるために私達は事前に文献を用いて、「コミュニケーションの基本的知識、看護に必要なコミュニケーション

ション方法について学習して臨みました。

研修では、東京ディズニーリゾートのセミナープログラムに参加しました。研修を通して学んだことは、相手のニーズに伝えるためには、相手の立場に立ち、自分から行動することが大切だという学びです。

まず、ディズニーではゲストに最高のハピネスを提供するために「安全を第一に考え、礼儀正しく、ショーの要素を大切にしながら、効率よく行動する」ことを大切にしているそうです。具体的には、安全を守ること、ゲストに安心感を得てもらい、礼儀正しさを持つことで相手のことを思いやります。そしてパレードだけではなく、ゲストの目に触れるものすべてがショーであること。さらに、チーム

ワークよく働くことで、効率を高め、ゲストの時間を無駄にしない。このことを心掛けていくと分かりました。



そして、行動基準のほかにコミュニケーションションには第一印象が大切であることを学びました。第一印象には、表情や身だしなみ、口調、視線、アイコンタクト、態度があり、それらに気を付けていくことで相手に好印象を与え、その後のコミュニケーションが円滑に進むようになります。また、身だしなみとオシャレの違いについて理解し、自分のた

めではなく、相手のために清潔感のある身だしなみをする必要性を学びました。研修での学びは、人対人である看護にも活かせるものだと感じました。

今回の学びを通して幅広い年齢で様々な価値観を持った対象に対して、自分の価値観を押し付けるのではなく、相手の個性に合わせた関わりをしていきたいと改めて思いました。そして、実習では患者様の目線に合わせることや、言葉遣いだけではなく、口調にも配慮し威圧感や圧迫感を与えることのないコミュニケーションを取っていきたいです。そして、目線を合わせられないときは笑顔や言葉遣いを、より意識することで、心のレベルを合わせていけるようにしたいです。

自主研修旅行を通してコミュニケーションの必要性を強く感じたことがあります。私達は四十四人という大人数で旅行に行きました。この人数でも、まとまって集団行動を通せたのは、一人一人が責任感を持ち、お互いに協力出来たからだと思います。さらに、グループや先生、旅行会社の方や乗務員さんと多くの報告、連絡、相談をして、スムーズに行動することもできました。



今回、自主研修旅行を無事に終える事が出来たのは、旅行の準備を頑張った委員、クラスの皆

そして家族、引率してくださった先生方や旅行会社の方、学校で心配していただいた先生方、すべての人の支えがあったからだと思います。今回学んだコミュニケーションスキルを今後の学生生活、看護に活かして行きたいです。



30周年記念式典に参加して
2学年（30期生）松本 旭代



九月十六日、トヨタ看護専門学校創立三十周年記念式典が催されました。

第一回は学校の体育館で厳かに執り行われました。校長先生や来賓の方々のお話や、在校生と卒業生代表の方から看護に対する姿勢や今後の目標について、お話を聞かせていただきました。私たちが目指す看

護の難しさの可能性を改めて感じ、さらに知識と経験を増やし、良い看護師になれるよう努力しなければ、と身の引き締まる思いでした。

そして、第二部と第三部は場所を変え、フォレストヒルズで行われました。第二部の前には校歌の作曲者である杉浦哲郎さんと、ソプラノ歌手の二宮咲子さんに校歌の歌唱指導をしていただき、どうしたらもっと上手く歌えるのか具体的に指摘をいただきました。短時間ではあったものの、みんなとても上手に歌えるようになったと感じました。



第一部が始まり、学校ができてからの三十年間を写真や当時の流行語とともに振り返り、改めて学校の歴史を知ることができました。そして卒業生の方々も式典にご出席いただいております、学生時代のことや、今はどんな仕事をしているかなど、現在の事もお話いただきました。卒業生の方々が様々な場所で活躍されている様子を聞くことができ、先輩方を頼もしく感じるとともに、私も将来患者様やご家族から頼りにされる看護師になりたいと思えました。



記念すべき第1期生



また、校歌である「かんのうた」の歌詞が作られた背景を聞き、当時の副校長先生である工藤聖子先生が病床で書かれたものであり、先生の看護に対する熱い思いが込められていたことを知りました。看護学校での三年間で、学生がどのように成長していくのか、学生と患者様の関係性までも歌詞の中で表現されており、先生は学生のことをよく見ておられたのだと感じました。看護師を目指す私たちにとって、この校歌の歌詞は勇気や励ましをくれ、看護師になるための道しるべであると思います。この校歌とともに残りの学生生活でも日々多くのことを学び、患者様と向き合える看護師になりたいと思えました。

第三部では学校の未

来について、話を聞くことができました。トヨタ看護専門学校は創立三十周年を迎え、リニューアルするため建て替えが行われます。新しく建つ学校のイメージ画像や間取り図をスライドで見せていただきました。広く明るい実習室や教室、先生方へ質問するための場所が教務室前に設置されるなど、快適で学習しやすい環境ができると知り、今後の学校生活が楽しみなものとなりました。

そして、最後に全員で校歌を合唱しました。校歌が作られた背景を知り、改めて看護に対する思いが強くなったので、今まで歌った中で一番気持ちよこめて歌うことができました。そして卒業生や先生方、学生全員が一体となったように感じました。

これから始まる領域実習や毎日の勉強を通して、たくさん事を学び、卒業していった先輩方のような立派な看護師になれるよう、日々精進していきたいと思えます。



「看護」に対する思い

3学年（29期生） 小芦 葵



看護師を目指し、トヨタ看護専門学校に入學してから三年経過し、今までの学習や臨地実習を通して様々なことを学ぶことができました。

入学前まで、看護師とはどういうものなのか曖昧でしたが、学習を進めていく中で看護とは何かを学び、実際に看護過程を展開していくことで、患者様に対してど

のように看護を提供していくべきなのか考えることができました。また、健康障害を抱えている患者様に対して、より良い看護を行うには自己の知識を深めることが必要だと知りました。そして文献を活用していくことや、教員から助言を得ることで、患者様の年齢や健康段階などの個別性に合わせた看護を実施することを学びました。

看護の基礎を学び、二年生の一月からは、専門領域実習で、様々な患者様に援助をさせて頂きました。急性期にあり生死を彷徨っている、慢性期にあり疾患と一生付き合いながら生きていかなければならない、終末期にあり回復の見込みがないと宣告されたなど、人の生死に触れる機会もありました。今ま

で大きな病気に罹ったこともなく、元気に暮らしていた私には経験したことのない苦痛や恐怖を感じている患者様との関わりは、私自身、私は何もできない、何が必要なのか分からない、と葛藤する日々の連続でした。その時教員から

「看護師はどんな状態でも患者様を第一に考え行動することが求められている。」と助言を頂きました。私はその助言を受け止め、患者様の気持ちに共感することが重要だと考えました。患者様の感情や心理状態を完全に理解することは難しいと思います。しかし、患者様の思いや特徴を把握し、共感や寄り添いなど、看護師の関わり方次第で信頼関係を築きあげることができ、それが、患者様の苦しみの軽減に繋がると

感じました。実習での反省や学びを通し患者様に共感し寄り添うことが看護には重要だと考えています。

学生として最後に行った統合実習では、看護チームの実際や他職種との連携について学び、チーム医療での看護師の役割を知りました。患者様の退院後の生活や、今後の方針など患者様がより良い方向に進むことができるようチームで考えました。その中でも、患者様との関わりが一番多く、日常生活における行動や患者様、ご家族のニーズを一番把握しているのは看護師だと考え、看護師が要になると感じました。

今後、看護師として専門的な知識や技術を日々に着けていくことはもちろんですが、患者様やそのご家族との関

わりから、想いやニーズを把握し、その想いに共感し、寄り添っていきたいと思います。また、患者様に関わる全ての職種と共通の認識を持ち、協働しながら、患者様が満足して頂けるような看護を提供できるように、今までの学びや体験を最大限に活かし努力していきたいと思います。



3年生進級に向けて

2学年（30期生）吉原 衣利



入学してから二年が経ち、振り返ってみると

課題や実習など大変なこともありましたが、この二年間でとても多くのことを学びました。

一年次には、解剖生理学や微生物学などの基本的な知識を学びました。そして、看護技術については、日々練習に励み、先生方からの助言を活用しながら基礎的な技術を身につけていきました。二月には初めての实習があり、実際に患者様を受け持ち、日常生活援助を中心に関わらせていただきました。しかし、学校で学んだ一般的な方法とは違い、患者様に合った個別性のある援助が提供できずにとて悩みました。すぐには上手くいきませんでした。指導者さんや担当教員からの助言をもとに、少しずつ成長することができたと思います。また技術面だけで

なく、患者様の安全・安楽性を意識した援助方法や、時間を意識して行動することの大切さを学ぶことができました。

二年次には、より専門的な知識・技術を学び、基礎看護学Ⅱ期実習では看護過程の展開を行いました。看護過程の展開を進めていく中で患者様の疾病を理解するとともに、アセスメントを通して問題を挙げ、患者様にとって必要な看護を考え、看護計画を立案しました。計画を実施し、看護目標が達成できた時や、患者様に「ありがとう」と言っていたいた時には、とてもやりがいを感じました。また一年次での実習とは違いカンファレンスの内容を自分たちで考え、進行していかなければなりません。初めは予定していた時間に開始す

ることができず、活発な意見交換もできなかつたため、内容が深まらないまま終わってしまうこともありました。しかし指導者さんや、担当教員からアドバイスをいただき、グループ全員で時間管理を行い、それぞれが事前に、カンファレンステーマについて自分の意見をまとめてくることで、内容の濃いカンファレンスを行うことができたと思います。

三年次では、いよいよ領域実習が始まり、さらに国家試験に向かうための勉強も始まります。実習を行いながら国家試験の勉強も進めていくのか、とても不安な気持ちでいっぱいですが、しかし、これまで学んできたことを活かし、これから始まる領域実習での経験も知識として身につけ、日々の学習を怠

らないように取り組んでいきたいと思っています。実習では、まだ経験していない技術を積極的に取り上げる姿勢を持ち、患者様にとって必要な看護を提供できるように技術の向上に努めていきたいと思っています。学習面ではこれまでの模擬試験の結果をもう一度しっかりと見直し、自分の苦手な分野を克服していこうと思います。これからさらに忙しく、くじけそうになることもあると思いますが、これまで共に頑張ってきたクラスメイトと励まし合いながら、全員で国家試験に合格し、それぞれの理想の看護師を目指して頑張っていこうと思います。



クリスマスキャロルに参加して

1学年（31期生）原田 稜子



平成二十九年十二月二十日、トヨタ記念病院恒例のクリスマスキャロルに聖歌隊として参加し、貴重な体験をさせていただきました。その日の夜、病室や廊下の明かりが落とされ、聖歌隊のキャロルのだけで照らされた病棟は、とても温かく安らぎのある雰囲気になりました。私は緊張の中、聖歌

を合唱しながら各病棟をゆっくり回って行きました。聖歌隊の列が病室に近づいていくと病室からは患者様の嬉しそうなお声が聞こえ、ベッドの上から顔を覗かせてくださる方、廊下まで聖歌隊を迎えに来てくださる方、聖歌を共に口ずさんでいただいた方、そして照れながらも手を振ってくれた子供たちの優しい笑顔に触れ、緊張が解け、私の心も温かい気持ちでいっぱいになりました。そして、写真を撮ってください、微笑み、会釈してくださる患者様やご家族の方など、病院で過ごされている方々一人一人が私達のクリスマスキャロルを楽しみにされていたことが伝わり、私もとても嬉しくなりました。私は患者様からのたくさんのお顔をいただ

き、そのお礼として患者様に笑顔になっていただけるといい援助を提供していきたいと強く思いました。



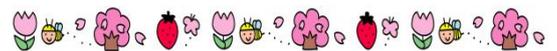
トヨタ看護専門学校に入学し、看護の知識や看護技術の練習をしていくなかで、技術の習得方法や、患者様への態度や姿勢のあり方に、戸惑い・悩み・葛藤し、自分を見失いそうにもなりました。そして「看護」とは何かと考え、看護の奥深さ、難しさを痛感し自分は看護師に向いているのかと悩みました。しかし、クリスマスキャ

ロルに参加して、患者様の笑顔と出会い、絶対に看護師になりたいと思う気持ちを再確認することができました。看護師になる道のりはまだまだ長く、想像以上に大変で苦しいことも多くあると思います。しかし困難にぶつかったときは、同じ志を胸に抱いた仲間がそばにいてくれると感じ、励まし助け合っ

ていきたいと思えます。そして、時には先生からの厳しい助言を頂き、目指すべき姿を見つめ、それが未来の自分に繋がると信じ、もっと強くありたいと思えます。

二月からは初めての臨地実習が始まります。未熟なままの技術では患者様に笑顔になっていただけるといえないような不安な援助はできません。これまで学んできた看護学、解剖生理学、看

護技術をしっかりと復習し知識を深めていきたいと思えます。そして一つ一つの技術に対しての根拠を以って目的から離れることのないよう努力し、クリスマスキャロルで抱いた理想の看護師になれるよう、日々の学習や実習に取り組んでいきたいと思えます。



3年間を振り返り 卒業に向けて想うこと 3学年（29期生） 榊原瑞希



ために必要な知識を日々学んできました。たくさんさんの教科書に囲まれ、こんなに憶えられるだろうかと不安になったことを覚えています。しかし、日々の講義は初めて知ることばかりで、看護の難しさを実感すると共に、新たな知識を獲得できることに喜びを感じていました。

全ての実習が終了し、残すところ国家試験のみとなった今、トヨタ看護専門学校の学生として過ごしてきた三年間を振り返ってみると、多くの方々に支えられてきたことを実感します。入学してから今日まで、看護とは何か、ということや、看護師になる

実習では、学校で必死に練習した技術を患者様に行わせていただき、看護の楽しさを実感しました。講義で学んだ知識や文献を活かし、患者様に必要な看護を日々考え、とても充実した時間を過ごすことができました。実習を通して「いつでも主語は患者様であり、自分がしたい看護ではなく患者様に必要な看護をすることが大切」ということを学ぶと共に、看護師として早

く臨床に出てチームの一員として患者様の役に立ちたいという気持ち芽生えてきました。

しかし、この三年間を振り返ると、辛いこともたくさんありました。多くの課題や記録に追われ眠れない日々、文字をたくさん書いて痛くなった手、自分は何のために頑張っているのだろうか、諦めてしまえば悩まなくても済むのではないかと何度も思いました。しかし、そんな時近くで支えてくれるクラスメイトがいました。自分が忙しくても声をかけ、話を聞いてくれるみんなに支えられて今日まで乗り越えてくることが出来ました。このメンバーでなければ途中で諦めてしまっていたと思います。また、実習を終え、振り返る時間ができた今、先生方がど

れだけサポートしてくださっていたか実感することが出来ます。ご担当の講義などもあり、忙しいにも関わらず、実習

先の病棟に来てくださり、時間を割いてわからない事や悩みごとの相談に乗り、いつも支えてくださいました。トヨタ看護専門学校で学び、先生方にご指導していただけたことを誇りに思います。そして、臨地実習を終え帰宅すると温かいご飯が準備されている事、朝は洗濯された看護衣とお弁当が毎日玄関に用意されている事、全てが当たり前のように過ごしていました。家族にどれだけ支えられていたか今になって感じる事ができます。実習中は、自分のことで精一杯で感謝の思いを伝えることが出来なかった事を反省し、「あり

がとう」と言葉にして伝えようと思います。



三年間を振り返ると、たくさんの方々を支えられ、今の私があると思います。感謝の思いを忘れず自分自身が一人でも多くの人を支えられるように、そして、目指す看護師像に少しでも近づけるように、残りの学校生活も大切に過ごしていきたいです。



平成29年度 3年生